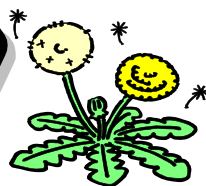


KAS

# Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 104



## ～「期待」を伝えよう～

| 吉野拓巳さん 7月 作業表 |   |   |   |   |   |           |          |
|---------------|---|---|---|---|---|-----------|----------|
| 7/1           | 月 | ① | ② | ③ | ④ | Thank you |          |
| 7/2           | 火 | ① | ② | ③ | ④ | Thank you | がんばりましょう |
| 7/3           | 水 | ① | ② | ③ | ④ | Thank you | Good     |
| 7/4           | 木 | ① | ② | ③ | ④ | Thank you | がんばりましょう |
| 7/5           | 金 | ① | ② | ③ | ④ | Thank you | がんばりましょう |



拡大すると・・・



## 目 次

- ・「W・D・S・N 27 (Watage Daily Support News)」  
～「期待」を伝えよう～ 《2～5ページ》
- ・新任职員紹介 《5ページ》
- ・わたげでの実習を終えて 《6～7ページ》
- ・ものもらくまるちとらくく 《7ページ》
- ・後援会のご案内 《8ページ》
- ・ボランティアさん☆大募集中！！ 《8ページ》
- ・編集後記（編集部） 《8ページ》

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会

代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109

(毎月1回15日発行) 購読料1部 15円

**「W・D・S・N 27(Watage Daily Support News) ～「期待」を伝えよう～」**

＜吉野さんのエンジン＞

吉野さんは、ケーブル解体作業や、お菓子箱の仕切り折り等に取り組んでいます。力が強く、硬くて剥きにくいケーブルも剥くことができます。そんな頼もしい吉野さんですが、作業を始めるまでに、とても時間がかかっていました。わたげに通所してから、1時間から2時間、廊下を行ったり来たり。これは、吉野さんにとって、エンジンがかかるまでの必要な時間なのでしょうか。でも、作業のスタートが早い日もあったのです。以前、作業が出来たらシールを貼っていく、出来高表を使っていた時のことです。吉野さんは、昔のアニメにととてもくわしく、DVDを集めています。そのDVDを、出来高表が貯まった時のご褒美としたところ、出来高表がいっぱいに貯まる直前の数日間は、作業のスタートがグンと早くなることができました。吉野さんが自分で「早く作業を始めよう」という気持ちになれば、エンジンのかかりは早いのです。持っている力を発揮できないのは、もったいない。そこから、今回の取り組みが始まりました。

＜ご褒美は必要？＞

「作業」と「報酬」の意味をつなげるために、今回も欲しいDVDをご褒美にすることを考えました。しかし、以前の取り組みで、出来高表が貯まる直前の数日間以外は、あまり効果がないことが分かっていました。そこで、笹先生に相談したところ、「欲しいものをご褒美に設定することで、欲しいものへの要求の強さによって、作業意欲が変化してしまいます。欲しくなくなったら、作業意欲が下がってしまうことも考えられる。言葉掛けで、評価を伝えていくことが大切です。」というアドバイスを頂きました。それを受けて、再度職員間で話し合い、ご家族にも相談しました。何もご褒美がないと、やる気にならないのではないかと・・・という不安もありましたが、今回は、「ご褒美」は設定せず、「吉野さんに、この作業量を期待しています」ということを分かりやすくシンプルに伝え、出来高表で、できたことを一緒に確認していくことにしました。

＜期待する作業量を伝えよう＞

吉野さんに期待する作業量を伝えるために、次の4つのポイントで取り組みました。

①提供する作業量を増やす

これまで、提供した作業量が終わらず、材料を少し減らしてみることもありました。いつものペースで進められれば達成できる量なのに、終わらず、また減らしてみる・・・という状況でした。終わりの時間が近くなると、吉野さんの方から、終わらなかった材料を返してくることもありました。しかし、作業のスタートが遅くてもラストスパートで追い上げて、達成できる日もありました。もしかすると、吉野さんにとって、作業量が少ないのではないかと。そこで、これまでの作業記録を基に、吉野さんの力を引き出せるよう、これまでの1.5倍から2倍に、材料を増やすことにしました。

## ②期待する作業量を明確に

いくら「期待しています」と伝えても、何をどのくらい期待しているのか伝わらなければ意味がありません。そこで、1日の作業材料を全て、専用の引き出しに入れて、具体的に期待する作業量をお伝えしました。また、これまで、1日の予定を手持ちのスケジュールでお伝えしていましたが、長年わたげで仕事をしている吉野さんには、もう必要ないのでは？と考え、思い切ってスケジュールをなくすことにしました。予定は、シンプルに材料で伝えます。1日の作業は4回。上から2つの引き出しには、午前2回分の材料が入っています。2つ目の引き出しに、昼食のカードを付けて、「終わったら昼食」と伝えました。下2つの引き出しは、午後の材料です。



## ③タイムリミットを伝えよう

「材料がなくなったら終わり」ですが、タイムリミットを伝える必要があります。そこで、午前、午後ともに、ラスト1時間になったところで、アナログタイマー（残り時間を示す赤い部分が減っていく）を使用して、残り時間を伝えることにしました。



色の部分がなくなったら、  
おわり  
(60分間タイマー)



## ④どこまでできたか、確認しよう

その日、作業がどのくらいできたか、職員と一緒に確認ができるように、出来高表を用意しました。1日1段で作業4回分の欄があります。1日の作業4回のうち、できた回の欄に、スタンプを押します。作業回ごとに、それぞれ違うスタンプを用意しました。作業4回、全部達成した日には、さらにスペシャルスタンプをもうひとつ！職員のコメントを記入する欄も作りました。

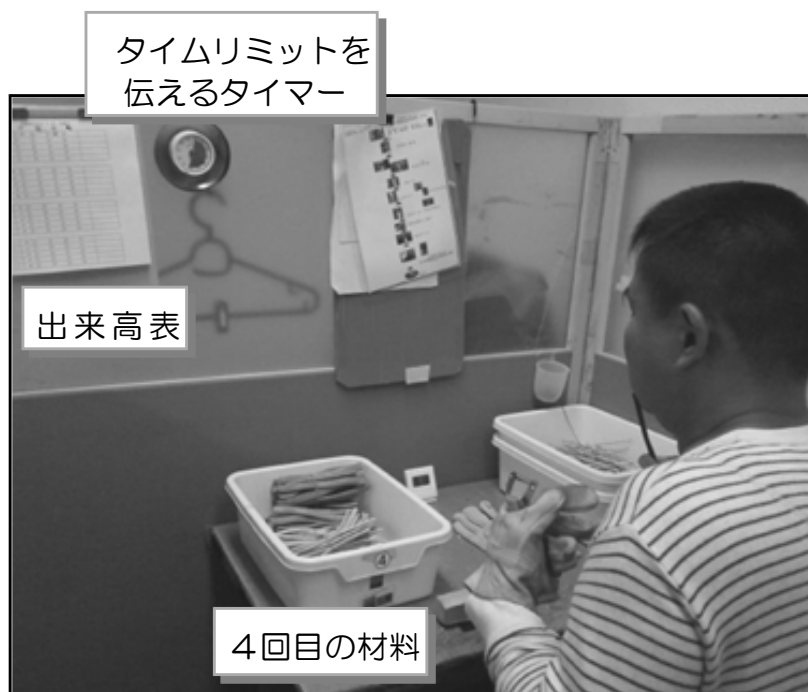
## &lt;気持ちを新たに&gt;

新しい取り組みは、6月初日からスタートです。新しいことを始めるには、気持ちを切り替える準備が必要です。そこで、1週間前にお伝えすることにしました。今回の機会は、作業以外のことも「新しくする」大きなチャンスです。ロッカーや作業場所にある、必要なもの、古くなったものを整理することにしました。数年前にご家族に書いてもらった、欲しいもののリストをのメモを30枚ほどバインダーに挟み、ご自分で作業機の隣に吊していました。それは古いリストで、今欲しいものは書いてありません。時々バラバラになって床に落ちてしまうこともありました。今はもう必要ないものに見えましたが、「メモを決めた場所に吊す」ことを決めている様子でした。以前、他の場所に移動することを伝えた時には納得できない様子でした。今回、5月で「終わる」ことを伝えたところ、5月31日に、吉野さんから「ゴミ」と職員に伝え、たくさんのメモを自分でゴミ箱に捨てることができました。これまで使っていた手持ちのスケジュールや、スケジュールに印をつけるペンも、これまでは壊れても他の人に預けることが難しかったのですが、5月31日になると、自分から職員に返すことができました。

## &lt;いよいよスタート&gt;

取り組み初日。半日の作業量として、細いケーブルの片側をピーラーで剥く作業を400本、ケーブルの外皮をピーラーで剥く作業200本を設定しました。これまでの約2倍量です。わたげに到着して20分後、10時に作業を始めることができました。集中して作業を進める吉野さん。しかし、結果としては、外皮ケーブルが120本残り、達成できませんでした。

その後も、1週目は作業が時間内に終わらない日が続きました。作業のスタート時間も、初日は10時でしたが、少しずつ遅くなり、3日目には取り組み前と同じ、11時頃になっていました。



## &lt;初めての全回達成！&gt;

2週目に入り、作業量をあらためて検討し、やりがいを感じられる適量を模索しながら提供しました。そして、2週目の水曜日に、初めて作業4回分、全て達成しました。「よくできました。がんばりましたね。かっこいいですよ！」と言葉掛けでねぎらいました。出来高表に、初めてスペシャルスタンプを押し、「よくできました！」とコメントを記入しました。以降、作業を少しずつ増やしていきましたが、全回達成できる日が多くなりました。そして、朝、廊下を行ったり来たりする姿は少なくなり、わたげに到着してから30分以内に作業を始めることができるようになりました。その結果、作業量が大幅にアップしました。取り組み開始前と後で、各20日間の作業総数を比べてみると、ケーブル片側剥きは7600本で約2倍、外皮剥きについては4100本で約3倍になっていました。取り組み開始から3ヶ月後の8月には、わたげで活動した17日間のうち、15日パーフェクトに達成することができました。



### ＜吉野さんのペース配分＞

2週目の水曜日に、初めて全回達成した吉野さん。のんびりペースで始めて後半に追い上げ、最後は、タイマーをちらりと見て、焦るように足を踏みながら、時間ギリギリで達成！という日もありました。それが少しずつ、一定のペースで達成できるようになりました。もしかすると、それまでの1週間半は、作業のペース配分を模索していた期間なのかもしれません。この作業量は、この時間に始めると達成できる、というペースを掴んだのが、2週間目の水曜日だったのではないのでしょうか。以前、作業量は変えずに「10時スタート」と作業の開始時間を伝えたことがありましたが、何も効果はありませんでした。この作業量だったら、まだ作業を始めなくても大丈夫、と判断していたのではないのでしょうか。時間を持て余していたのかもしれない。

こちらが期待する作業量が、吉野さんの持っている力より少なかったということに気付かされました。吉野さんにとってやりがいの感じられる、持っている力を発揮できる作業量を設定して、この作業量を期待しています、と吉野さんにとって分かりやすく伝えることで、自然と作業のスタート時間も早くなっていったのでした。

### ＜「できた」という気持ちを積み重ねる＞

作業が1回完成すると、出来高表にスタンプを押します。スタンプを押した時も、「よくできましたね」と声を掛けた時も、吉野さんの表情にあまり変化はありません。でも、少しずつ吉野さんからスタンプを押して欲しいと伝えてくれるようになりました。

わたげでは、ご褒美を自分で決めて、それを楽しみに作業を頑張っている方もいます。料理をしたり、お菓子を買に行ったり。何か楽しみがある、ということは、日々の生活の中で大切なことだと思います。でも、作業の報酬として、必ずご褒美が必要なわけではない、ということに今回の取り組みで気付かされました。絶好調の日もあれば、調子が出ない日もあるのは、当たり前のことです。その毎日の中で、今日は作業がどのくらいできたのか、吉野さんと一緒に確認しながら、「できた」という気持ちを積み重ねていくことが大切なのではないのでしょうか。これからも吉野さんの活躍、期待しています！

山中 恵子

## ☆☆新任職員紹介☆☆

9月より、わたげの非常勤職員になりました、今岡裕美です。よろしく願い致します。

横浜生まれ（病院が横浜市だっただけ）横須賀育ちです。趣味は水墨画、プランター菜園、スーパー銭湯等に行く事です。最近はプランターで育てた野菜を食し、水墨画の絵の題材にしてフル活用しています。ベランダは3階なのですが、蜂やカマキリ、バッタなどが訪れ生態系が出来ている事に度々驚かされます。皆さんと仕事を通して共に成長していきたいと思っています。



今年も、ソーシャルワーク実習実習生1名を受け入れました。実習を振り返っての感想を書いていただきました。約1ヶ月間に及ぶ長い実習、お疲れ様でした！

## わたげでの実習を終えて

2013 年 9 月 2 日(月)～ 10 月 4 日(金)の 23 日間、わたげにて実習をさせていただきました、神奈川県立保健福祉大学 3 年の對馬正太郎です。私がこの実習で学んだことを少し、書かせていただきたいと思います。

実習を通し、私が学んだことは、「迷うこと」と「本人に合った支援作り」です。まず、「迷うこと」とは、ただ漠然とどうしようと思うことなく、簡単に言ってしまうと、利用者さん一人ひとりについてよく知り、その人に合った支援の形を見つけていく過程のことをさしています。今回、A さんの余暇支援としてのゲームの取り組みをやらせていただいて、どうしたら A さんはゲームをやりたいと思うだろうとか、興味のあることを活かしてゲームを作りたいという思いで、実習最終週は毎日 A さんのことを考えて過ごしました。それは同時に、実際にゲームを作って A さんと一緒にやり、反応を見ては修正する、ということの繰り返しの日々でもありました。正直、この繰り返しの中で A さんが納得のいくゲームが完成するのか、不安で仕方ありませんでした。しかし、実習最終日、A さん自身からゲームをしたいという言葉や行動がありました。この時初めて私は「ああ、これまでしてきたことは間違っていなかった」と、ほっと胸を撫で下ろす思いを持ったのでした。



私が実習で学んだことにもうひとつ、「本人に合った支援作り」があります。これは利用者さんを取り巻く周囲の人々の考え・意見ではなく、本人はどうしたいのか、という「本人にとってはどうなのか、という視点」をちゃんと考えなければ本人に合った支援はできないのではないか、という疑問が発端でした。A さんのゲームの取り組みをしている間も、これは本当に A さんのためになっているだろうか、私の勝手な思いで取り組んではいけないだろうかと考え続けていました。ただ、ここでひとつお話ししておきたいことは、利用者さんは自閉症という障害特性から、経験を大切にすることです。逆に言えば、経験を大切にすることこそ、こちらが経験を提供し、本人の自己選択の幅を広げることで、生活の質を上げることができる可能性があるということです。今回の余暇支援も A さんの余暇の質を上げたいという思いでゲームの取り組みを行ってきました。その点、最終日に A さんの言葉や行動からゲームしたいという思いが表れたことは一歩前進といえるのではないかと思います。



「本人にとってはどうなのか、という視点」は必要な視点ではありますが、「利用者に合った支援作り」をするということにおいては、単純に利用者の思いだけを尊重することではなく、その人の生活や人生といった広い視点に立って考えを膨らましていくことも重要なことなのだと学びました。



私は、わたげの実習を通し、ここには書ききれないほどの経験と学びをさせていただきました。そして改めて自分を見つめなおすことができました。今回の実習の経験と学びを活かし、これからの学びをより一層深めていきたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りして、私の考えや思いを的確に理解してくださった、実習指導者の山中さん、個別支援計画の取り組みに協力してくださった A さん、そして23日間の実習中お世話になり続けた横須賀たんぽぽの郷の職員の皆さん、すべての人に感謝したいと思います。本当に、ありがとうございました。

神奈川県立保健福祉大学 社会福祉学科 3年  
對馬正太郎

## たんぽぽ・ヨコスカ ものとらっくまるちとらっく No.53

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。

### 篁一誠先生 ケース会議について

8月9日（金）篁先生（PDDサポートセンターグリーンフォーレスト）が来所されました。わたげの日中活動の様子を見ていただき、ケース会議にて、職員からの質問に対しアドバイスをいただきました。その中のひとつをご紹介します。

職員から、働くこととお給料という報酬のつながりについて、私たちが個々に合わせた工夫を重ねていけば、多くの人はずなっていくだろうかという質問をしました。

先生は、仕事イコールお給料とだけ結びつけてしまうことで、仕事自体への評価がなくなる恐れがある。「今日あなたは所定の仕事が出来ています」と伝えることでよいのではないかと。利用者自身が、今日は何本やると目標を決め、その目標を6ヶ月かかって達成された事例を挙げ、6ヶ月達成できなかった期間、支援者は、「今日は〇本出来ましたね」とだけ伝えた。出来なかったことを非難したり、目標を下げるようアドバイスすることはしなかった。それがとても大切。それが「支える」ことの原則だと思う。激励すること、必ずしも良い結果に繋がるとは限らないと思う。自分で目標を決め、モチベーションを持てるようになると良い、達成できなくてもそこに向かうことが大切であるとお話されました。

また、あるご家族が、学生時代には家のお手伝いをするとお小遣いがもらえるとしており、子どもが就職したことをきっかけに、お手伝いに対するお小遣いをやめた。ではお手伝いは何のためにするのか、父は「名誉です」と子どもに伝えたというお話もしていただきました。

報酬というのは、その人にとっての達成感や励み、自信となるものであり、支援者は、それを探り、提案し、利用者本人が納得し、そこに向かっていく。その姿勢を支えていくことが私たちには必要なのだと、先生のお話から学びました。

## たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な援助に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

|       |         |         |
|-------|---------|---------|
| ▼ 年会費 | 個人会員 1口 | 3,000円  |
|       | 団体会員 1口 | 10,000円 |

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474  
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



## ボランティアさん 募集中

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで  
自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？  
作業の検品、余暇活動の支援、清掃等  
お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

### 〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:かいえだ)  
E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp  
ふぁず 電話:046-888-3961 (担当:しょうじ)  
E-mail: adz13970@ams.odn.ne.jp  
こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:すずい)  
E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



### 編集後記～編集部～

金木犀が香る季節になりました。金木犀が香ると、秋の深まりを感じ、お鍋が恋しくなります。  
突然ですが、香りと思い出して結びつきが強いと思いませんか？私は、初夏の風の匂い(この匂い、誰にも分かってもらえませんが...)がすると、部活動の夏合宿を思い出し、一瞬背筋が凍ります…。かれこれ十〇年！経っていますが、未だにあの頃感じた匂いを覚えているのです。  
自閉症の方たちの感覚の過敏さについて、よく聞くことがあるのではないのでしょうか。家族には何も聞かないのに「救急車」と言い、しばらくすると家族にもサイレンが聞こえてくる、なんて。人によってはそれが嗅覚のするどさである方もいるのでしょうか。理由の特定できない不安定さや、気分の切り替わりがあった時、先述した聴覚や、気候、気圧、湿度などの他、嗅覚というものも、非常に把握のしにくいものですが、視覚や聴覚に並び、丁寧に考えていかなければならないのだと思います。  
話はもとに戻ります。みなさんは、どんな匂いで秋を感じますか？

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21  
TEL:046-844-0038 / FAX: 046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp